

市民活動団体を応援する方法

山本卓也



行政ができないサービスを、NPO、NGO、その他団体が担って日本の社会は回っています。しかしそういう民間団体の多くは“志は崇高な団体が多い”のですが、人材不足、資金難という問題を抱えています。

一方、私たち日本人は欧米人と比べると、ボランティアをする、寄付をするという文化が少ないように思います。例えば欧米の自然保護団体には会員数が100万人以上の団体も多く、寄付も桁違いの規模です。ところが日本では会員はせいぜい2~3万人くらいの規模が最大で、寄付金額もわずかなので、団体の運営に影響のある額が寄付されることはほとんどないのが実情です。

私自身のことを述べさせていただくと、私は以前「日本野鳥の会」で鳥の案内人として活動していたことから、ボランティアに対して抵抗感はありません。鳥の案内人というのは、会員や一般参加の方と一緒に野山を散策しながら野鳥の声、姿を観察したり、野草や野鳥の食べる実のなる木を確認しながら自然を満喫する「探鳥会」という会のナビゲーターをいいます。もっとも案内人である私も、参加者の喜ぶ姿、感動している姿を見てエネルギーをもらっていました。ですから、教える人、教えられる人という一方の関係だけでなく、参加者全員が2~3時間という短い時間をそれぞれの感性で楽しむことができるのです。このように週末にボランティアの醍醐味を味わっていたことが、私のボランティアの原点です。野鳥の会では16年間活動してきましたが、家族の健康問題があり一時活動は中断していました。しかし、家庭での生活パターンが確立されて以降はいろいろな団体に携わってきました。

私は現在62歳ですが、30歳で探鳥会の案内人になって以降、サラリーマン生活しながらボランティアをしてきました。しかし時間は有限なので、すべての団体に全力投球することはできませんでした。そこで私なりのボランティアに関する考え方、心がけていることを以下のようにまとめてみました。



- ① 自分の特技を生かして活動する(私はバードウォッチングの案内人を今もしています)。
- ② ボランティアを必要としている団体のお手伝いを積極的に心がけるが、無理のない範囲で活動をする(私は多少無理をする傾向がありますが)。
- ③ 直接お手伝いできない場合(時間の融通がつかなかったり、体の不調で活動できない方など)は、気になる団体や応援したい団体に会費を払うことで会員として支援をする。
- ④ 用途がはっきりしていて自分のポリシーに合致した場合は、その団体に寄付をすることで支援をする(認定NPO法人や社会福祉法人などへの寄付は、確定申告をすることで寄付額に応じて、還付を受けることができます)。

人は誰でも自分が一番大切ですが、一人で生きているのではなく社会の中で生かされているという思いがあるのではないのでしょうか。だから、私は仕事以外でも社会に対してできる範囲でお返ししたいと考えています。幸い豊かな国・日本で生活しているので、毎日生きていくのがやっとという国の人とは違います。そんな環境に感謝しつつ、これからも活動していけたらと思っています。

切った髪の毛がだれかの役に立つ!?

ずっと伸ばしてきた髪を切った時、こんなに長いのもつたいないなあと思ったことはありませんか?その髪の毛が、だれかの役に立つなら、こんなにうれしいことはないですよね。そんな取り組みがヘアドネーション(髪の毛の寄付)です。病気などで髪に問題を抱える子どもたちに、寄付された髪の毛で作ったウィッグを無償提供する活動は世界のいろいろな国で行われていますが、日本では大阪に本部がある特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity(通称「ジャーダック(JHDAC)」)が行っています。ジャーダックでは、100%寄付された髪の毛で作ったオーダーメイドの医療用ウィッグを18歳以下の子どもたちにプレゼントしています。これまでに100名近い子どもたちに提供していますが、現在も約100名がウィッグを待っています。ひとりのウィッグを作るためには、20名~30名分の髪の毛が必要だそうです。

髪の毛を寄付するのに必要な条件は、長さが31cm以上あること、完全に乾かしてあること、ゴムで切り口をしっかり束ね、同じ人の髪をまとめてあることの3点だけ。製作過程で髪質を均一にするトリートメント処理を行うため、白髪があっても、パーマやカラーリングをしていても、極端なダメージがない限り大丈夫だそうです。

また、全国にはジャーダックの活動を支援する賛同美容室があり、そこで切ってもらえば、寄付の手続きを行ってもらえます。今回、私が髪を切ってもらったのも、賛同美容室のひとつ「ヘアーサロン千鳥」。オーナーの竜也さ

んは日本髪が結える「結髪師」でもあります。「(切った髪の毛が)何だかもつたいないですね」というお客さんとの何気ない会話がきっかけで、この活動を見つけ、1年ほど前から協力しているそうです。これまでに100名を超える方がヘアドネーションに参加し、現在は1週間に3~4名の希望者がいるとのこと。昨年の夏頃は10代や20代のヘアドネーションは少なかったけれど、最近は増えてきた感じがあり、成人式のあとに切りに来てくれた人もいます。

「ヘアドネーションをした方が、まわりの方に『ヘアドネーションしたよ』と言うと『それ何?』と質問が返ってくる、そうしたやりとりを繰り返しながらこの活動が広がっていくのでは。長い髪を切ったあとに『あ、髪切ったんだね!ヘアドネーションしたの?』という会話が始まるくらい浸透するといいなあ」と、オーナーの竜也さんは言います。少しでも活動を知ってもらえるように、私も髪を切ったあと、「ヘアドネーションって言ってね...」と、まわりの人に宣伝しています。

髪の毛の長さや傷み具合が心配な方は、事前に相談にのってもらうこともできますよ。私も事前に髪の毛の状態を確認してもらいました。ヘアドネーションについての不安や疑問だけではなく、切ったあとのヘアスタイルのことも、丁寧に相談にのってくれましたよ。暑くなってきたし、髪を切るのかなあと考えているあなた、自分もだれかもうれしい気持ちになれるヘアドネーションをしてみたいかですか?

(さほらえつこ)

[ヘアドネーション体験]



before



髪をいくつかに分けて束ねてから切ります



今回は37cmほど切りました



after

Information

ヘアーサロン千鳥
〒460-0011名古屋市中区大須2-12-4
大須西赤門通り南側
TEL 052-212-7582
Eメール chidori@nihongami.jp
ホームページ <http://nihongami.jp/>



特定非営利活動法人
Japan Hair Donation & Charity
ホームページ <http://www.jhdac.org/>